

池田文書の研究 (35)

公家華族の書簡 (その2)

池田文書研究会

[9] 鷹司熙通・奥・家扶の書簡

当家は5撰家の1. 藤原北家道長の後裔. 代々撰政・関白を勤める. 熙通は九條尚忠ひろみちの男子で鷹司輔熙ひさただの養子となる. 安政2年生. 大正7年没. 享年64. (1855-1918) 明治5年爵位継承. 陸軍少将. 大正元年侍従長. 公爵.

1 明治 年7月10日 (1873)

(封筒表) 神田区駿河台北甲賀町九番地

池田謙(マ)斎殿

(封筒裏) 麴町区上二番町 鷹司熙通

拝啓, 陳ハ来ル十五日午後五時ヨリ芝公園紅葉館ニ於テ籠蓋ヲ呈シ, 久々御懇話致度候間, 乍御迷惑万障御差繰御来車被下度得貴意候, 敬具

七月十日 鷹司熙通

池田謙(マ)斎殿

追て御差問之有無承知致度, 乍御手数来ル十二日中御一報ヲ煩度候

2 明治 年5月14日 (1871)

(封筒表) 池田さま御用 鷹司家奥

(封筒裏) 〆 五月十四日

口上

此間はせつかく御見廻被下候へ共順子⁽¹⁾様お留主中にて御残多, 其後も御をりものハさつぱり御とまり遊ハし候へ共, とかく御下腹御はり遊ハし候間, 明日ニても一応御しんさつ御願遊ハし度, 今日ハ御別邸へ御出被成御留主ゆへ御自由かましく候へ共明日願まいらせ候, 右のミ, めて度かしく

五月十四日 鷹司家奥

池田先生え

(1) 順子おきこ 明治4年生. 昭和18年没. 享年73. (1871-1943) 徳大寺実則さねのり長女. 鷹司熙通夫人.

3 明治 年 月18日 (1872)

連日鬱々敷御坐候処愈御多祥奉賀候, 陳ハ從四位殿并ニ奥方とも過日来不快にて引籠り困却罷在候条, 何卒御繰合セ一応御来診被下度及御依頼候, 可相成ハ御来診之時日御聞セ被下候ハ、至極重畳之事ニ御坐候, 右御依頼迄得貴意候也

十八日 鷹司熙通家扶

池田謙斎殿

御取次御中

4 明治 年6月29日 (1870)

拝啓, 毎々御苦勞千万ニ奉存候, 扱本年上半季間御診察料乍粗末左記之通贈ラレ度ニ付, 乍御手数夫々御達し相成度此段御依頼申進候, 外ニ薬価御書付面之通差出候間是亦御納被下度候也

記

一金 三十円 池田先生へ

一金 七円 竹井静先生へ

一金 七円 古谷先生へ

一金 十六円九十六銭 薬価

右

六月廿九日 鷹司家々扶

池田様 会計御中

[10] 高辻修長の書簡

当家は出雲野見宿禰の子孫. 代々文章博士を世襲. 修長おきなは天保11年生. 大正10年没. 享年82. (1840-1921) 幕末薩長側につき維新後侍従となる. 皇太后宮亮・東宮侍従長・宮中顧問官歴任. 子爵.

1 明治22年11月3日 (1860)

(封筒表) 侍医局長 池田謙齋殿
 (封筒裏) 緘 東宮亮 子爵高辻修長
 一, 白羽二重 壺匹
 一, 鮮鯛 壺折

右は本日東宮宣下被為在候ニ付, 思召ヲ以下賜候
 条御廻申入候也

明治二十二年十一月三日

東宮亮 子爵高辻修長

侍医局長 池田謙齋殿

(封筒裏) 封

昨日ハ御診察給難有候, 扱昨夜より咳度々出, 夫
 カ為メ安眠も難相成, 且兎角夜分ニ至リ水氣増
 張, 横ニ臥タル方ノ眼少々塞ガリ候程之事ニ御座
 候, 且頓服御薬相用ヒ候後大便水下し午前一時ニ
 一度, 三時過一度, 五時比等三度通し有之, 小水
 之方ハ右三度之時ニ少々宛有之候故ニ残ス能ハ
 ズ, 何分咳打続キ困難之仕合ニ御坐候, 右咳之御
 薬御調合相願度, 先右容体旁申入候, 已上

十二月十五日

千種

池田謙齋殿

2 明治22年11月8日 (1859)

来ル十三日 東宮御陪食之節燕尾服御着用有之度
 旨過日大夫ヨリ申進置候処, 右ハ小礼服御着用之
 事ニ致度, 此段更ニ申進候也

明治廿二年十一月八日

東宮亮 子爵高辻修長

侍医局長 池田謙齋殿

〔12〕 徳大寺実則・家扶・家従の書簡

当家は藤原北家道長の叔父閑院公季の後裔。
 実則は天保10年生。大正8年没。享年81。(1839-
 1919)。明治4年侍従長。以後宮内卿・内大臣を
 兼任。公爵。

(徳大寺実則書簡の内「東大医学部初代総理池田
 謙齋」上下巻掲載分は除く)

〔11〕 千種有任の書簡

当家は村上天皇の後裔, 久我家の庶流。有任は
 天保7年生。明治25年没。享年57。(1836-1892)
 文久元年侍従。明治14年宮内省御用掛。子爵。
 長女任子は明治天皇第3皇女滋宮の母。

1 明治 年7月23日 (2029)

(封筒表) 池田侍医殿 千種有任
 (封筒裏) 〆 七月廿三日 岩倉家ニテ

前略, 甚御苦勞願兼候へ共, 滋宮⁽¹⁾ 御義ニ付一
 寸拜談相願度就テハ私より罷出候筈之処, 岩倉家
 ニ於テ彼是取紛居候間, 誠ニ願かね候へ共御退キ
 掛け一寸当家迄御立寄相願度, 此段申試候也

七月廿三日 千種有任

池田謙齋殿

追テ別段御異状被為在候と申義ニも無之候也

(1) 滋宮 明治天皇第3皇女韶子内親王。明治
 14年生。明治16年薨去。享年3。(1881-1883)

2 明治 年12月15日 (2028)

(封筒表) 池田謙齋殿 千種有任

1 明治 年3月18日 (2129)

(封筒表) 医学博士 池田謙齋殿

(封筒裏) 緘 侍従長 徳大寺実則

拜啓, 明後二十日午前十時前頃御参被下度及御依
 頼申入候, 頓首

三月十八日

実則

池田博士殿

2 明治 年1月11日 (2133)

(封筒表) 池田侍医殿

(封筒裏) 緘 徳大寺侍従長 (宮内省印)

御用談致度候間, 明十二日午前十時御出頭可有之
 此段申入候也

一月十一日

徳大寺侍従長

池田侍医殿

3 明治(15)年4月8日⁽¹⁾ (3214)

昨夜ハ御苦勞存候, 扱御内意申入候岐阜県下へ御
 使之儀, 御沙汰止ニ相成候間, 今日御参ニ不及候,
 右早々申入候也

四月八日

実則

池田謙斎殿

(1) 明治15年4月7日自由党総理板垣退助遭難見舞の事か

4 明治 年6月23日 (2131)
 拝啓、然は日々御来診御尽力之程辱奉存候、此粗肴乍輕少折節之低進上被致度御笑留可被下候、頓首

六月廿三日 徳大寺実則家扶
 池田殿 執事御中

5 明治 年12月22日 (2137)
 拝誦仕候、此鴨二羽甚々御鹿末ニ候得共、歳末之印迄ニ入御覧候様主人申聞候間、宜敷御上申奉願上候、以上

十二月廿二日 徳大寺家々從
 池田謙斎様 御薬室御中

とみのこうじ
 [13] 富小路敬直の書簡

当家は二條家の庶流、代々和歌・俳諧を家業とした。敬直ひろなおは天保13年生、明治25年没、享年51。(1842-1892)侍従、子爵。

1 明治 年3月20日 (2147)
 御多祥奉賀候、抑大舎人中堀正常義ハ元迂生家来、当時トテモ兼勤為候者ニ候、同人義過日所勞ニ付、船曳清修⁽¹⁾診察執ヒ依頼仕居候得共、何卒貴兄御診察相願度旨申出候間、何卒御診察自迂生御依頼申入候也

三月廿日 富小路敬直
 池田謙斎殿

(1) 船曳清修 文政8年生、明治28年没、享年71。(1825-1895)。父は漢蘭折衷の産科医、京都生れ、洋方産科医として初の侍医となる。

なかのみかど
 [14] 中御門家扶の書簡

当家は藤原北家冬嗣の孫高藤の後裔、勸修寺家より分かれる。経之つねゆきは文政3年生、明治24年没、享年72。(1820-1891)岩倉具視と共に王政復古

を図る。明治2年京都留守長官となって皇后の東京行啓反対者を慰留する。侯爵。良子ながこは経之の長女。天保13年生、明治34年没、享年60。(1842-1901)典侍、正五位。

1 明治 年7月28日 (2171)

(封筒表) 池田様 御執事中 中御門家扶
 (封筒裏) 〆 七月廿八日

大暑之節御座候処弥御健勝奉賀候、陳は水仙粽五抱時節為御見舞被進候、宜御執奏被下度候也

七月廿八日 中御門良子 執事

池田様 御執事御中

追て過日御服砂御借進申入候、序ニ付此ものへ御渡し被下度候也

2 明治 年9月14日 (2170)

弥御安康奉賀候、陳ハ過日俄ニ御診察御苦勞相願候織田家ニ滞在ノ新荘家後室病氣為療養、其後佐藤病院へ入院被致、種々御加養之処無御叶昨日竟ニ御死去相成候、依て早速右之段可申上答之処、同家も紛雜罷在且当家ニおゐても彼是取込罷在候ニ付延引ナカラ此段御報知申入候也

九月十四日 中御門家扶 北邨勝達
 池田 憲 斎殿 閣下

[15] 中山孝麿・家扶の書簡

当家は藤原北家関白師実の二男花山院家忠の後裔。孝麿たかまろは嘉永5年生、大正8年没、享年68。(1852-1919)東宮大夫、中山忠能ただやす(明治天皇の母方祖父)の孫、従って明治天皇の従兄弟に当る。侯爵。

1 明治 年2月25日 (2190)

(端裏書) 池田謙斎殿 中山孝麿

愈御安泰奉賀候、陳は祖母家内之者御世話ニ相成難有奉存候、此品不珍候得共任到来入貴覧候、御笑納被下候ハ、本懐ニ奉存候也

二月廿五日

2 明治 年3月19日 (2191)

(封筒表) 池田謙斎殿 親展

(封筒裏) 〆 中山孝磨(宮内省印)

拝啓、陳は伯母栄子⁽¹⁾儀又々此程より所勞之趣、
実は流行感冒之後にも有之甚た懸念致し候間、御
參之折一寸御一診奉願度候、此段小生より御依頼
申上候、敬具

三月十九日

孝磨

池田殿

(1) 栄子 中山栄子。嘉永元年生。昭和2年没。
享年80。(1848-1927)中山忠能の6女。公家・
伯爵庭田重胤の養女となる。

3 明治18年7月2日 (2195)

二仲、乍御手数御落手証一葉御差越可被下候
拝啓仕候、薄暑ニ御座候候処、各位愈御多祥奉賀
候、陳は先般中山栄子有楽町邸内住居中所勞之節
は先生え御来診被願、早速御来車被成下厚忝被存
候、右為御挨拶乍輕少御菓子料金老円進上被致
度、且其後青山宮御殿之方にてモ御診察被願候、
右為御挨拶甚乍些少鶏卵老宮進上被致度候旨被申
聞候間、則為持上候、各位宜御取計可被下候様奉
希候也

十八年七月二日

中山家々扶

池田謙齋殿 御執事(欠)

4 明治 年1月20日 (2196)

昨日は御參診被下奉拝謝候、被仰聞候丸葉使へ御
渡被下度相願候、且又日本酒ヲ廢^{サンタフ}シ^{ヘル}聖得朗彼爾ト
申洋酒相用候方宜とか孝磨被申候、一応可否相伺
度御示相願候也

一月廿日

中山家扶

池田様

[16] ^{にしごり}錦織久隆・教久・吉田周利の書簡

当家は卜部氏より出て吉田家の分家萩原家より
分かれる。久隆^{ひさなか}は文政3年生。明治15年没。享
年63。(1820-1882)刑部卿を勤める。長男教久^{ゆきひさ}
は嘉永3年生。明治40年没(1850-1907)。貴族院議
員。子爵。享年58。吉田周利は当家出入りの医師。

1 明治 年1月29日 (2355)

嚴寒候、弥御清榮欣然之至候、陳ハ過日於松木家
愚息得拜面候節、卒尔ニ相願置候土御門家家族兩
人且外一人等先生御一診之儀相願度、即參館為致
候間何卒午御面^(ママ) 働宜希上候、御用繁中実ニ恐入
存候得共、於御許容ハ畏入存候、早々頓首

一月廿九日

錦織久隆

池田謙齋殿

追て昨日ハ松木家へ光車御苦勞奉掛恐入存
候、尚宜奉希入候、容体之義同家より可申上
ト存候也

2 明治 年11月2日 (2347)

(封筒表) 池田謙^(ママ) 齋殿 錦織教久

(封筒裏) 〆

追日寒冷相増候処弥御祥榮欣然候、偕て父義一昨
日御門人御来診之節同容ニ御座候得共、昨夜ヨリ
肩えコズミ時々メマイ致シ吐水仕候、甚心痛仕候
間日々御多用之御中御足勞相願兼候得共、何卒御
用御都合宜候ハ、本日一度御来診希入度、此段願
入試度、早々如此候頓首

十一月二日

錦織教久

池田謙齋殿

3 明治 年11月3日 (2346)

弥御安康欣然候、陳ハ昨日ハ御来診之義願入候
処、御多用之中早速ニ御光車畏入存候、御蔭ヲ以
テ安心仕候、其後先ツ同容ニ御座候、猶宜希入置
候、將又小生ハ御蔭ヲ以追々快方ニ御座候、此段
申入候、早々如此候也

十一月三日

錦織教久

池田謙齋様

4 明治 年4月30日 (2345)

御清榮欣然候、陳ハ父病氣ニ付過日已来御多用御
中毎々御来診被下畏入存候、先ツ御蔭ヲ以同容相
変リ候義も無之候、猶宜希上候、早々頓首

四月卅日

錦織教久

池田謙齋殿

5 明治 年5月28日 (2352)

愈御清榮欣然候、陳ハ父病氣ニ付御多用之御中毎々御来診畏入存候、猶宜希入候、然処父義昨今之処余程疲労仕大困却之様見受候、何卒尚又宜希上候、將亦此處看甚乍輕少折節到来仕候間進呈致度候、於御笑味ハ万々畏入存候、先ハ早々如此候頓首

五月廿八日 錦織教久
池田謙齋殿

6 明治 年6月7日 (2351)

(封筒表) 池田謙齋殿

(封筒裏) 錦織教久

愈御清康奉欣賀候、偕て御多忙之御中毎々御来診畏入奉厚謝候、將亦父義一昨日ヨリ余程容体も相変り猶又昨日ヨリハ度々之嘔氣ヲ催シ度々水ヲ吐キ候、時々嘔氣ヲ催候節ハ余程苦痛之様見受候、食事ハ勿論其他之物も一昨日ヨリ少々も用ヒ兼候、且又昨夜今朝之処ニテハ容体も不宜候、就ては御用御多端之御中希入兼候得共、何卒一応御診断相願度、容体之処も篤クト御尋申入度ニ付、本日御来診之義希入試候、御来診被下候ハ、一同安心仕候、先ハ右願入度、早々如此候也

六月七日 錦織教久
池田謙齋殿

7 明治 15年6月18日 (2348)

(封筒表) 駿河台南 甲賀町 拾 番地

池田謙齋殿

(封筒裏) 四ツ谷区仲町三丁目卅八番地

錦織教久

六月十八日 (切手一銭 消印 東京一五・六・一八・ト)

口述

父久隆長々御世話ニ相成厚謝候、然ル処今午後一時ニ死去致候ニ付御告書候也

六月十八日 錦織教久
池田謙齋殿

8 明治 年9月15日 (2354)

未タ秋熱難去候処、倍御安祥奉敬賀候、却説御多

端中御足勞願兼候得共、老母義一昨夜来病氣ニ付竹井静并ニ区医中村倭文雄等へ診断相頼居候得共、兎角容体不輕様ニ見受候ニ付何分老年之義大ニ案シ候ニ付、一応貴官之御診断を仰キ候ハ、大ニ安心仕候次第、尤青山御所若松典侍ニ於ても一応先生之御診断相願候ハ、実以て安心仕候ニ付、何卒御来診を煩度懇願仕候事ニ候、明朝又ハ今夕之内御用透ニ御来診相願度此段奉懇願候、呉々も御多忙之中恐縮ニ御座候得共、御承諾も被下候ハ、難有安心仕候、何分ニも宣布及懇願候、草々敬白

九月十五日 錦織教久 池田謙齋殿

9 明治 年10月18日 (2349)

(封筒表) 池田謙齋殿

(封筒裏) 錦織教久

拝啓仕候、然ハ過日老母病氣之節ハ御来診相願難有奉存候、尔后御蔭ヲ以テ追々快方ニ赴キ居候処、一兩日前より他症相発シ大ニ心痛罷在候ニ付ては、御繁忙中毎々恐縮奉存候得共、本日一応御診断奉願度、此段乍略儀書状ヲ以テ奉懇願候、早々頓首

十月十八日 錦織教久
池田謙齋殿

10 明治 年1月28日 (2353)

降雪寒威凛烈候、弥御安祥奉賀候、然ハ松木宗有⁽¹⁾病氣ニ付御一診之義奉願候処、御用多御中態々昨日ハ御来診給千万忝奉万謝候、先々同人義モ同容ニ御座候、就てハ昨日御帰後吉田周利入来ニて先生御書之趣奉敬承候趣ニ御座候、随テ甚願兼候儀ニ御座候得共、今日今一応御診察相願度之趣周利ヨリ相願候、御用多御中希上兼候得共、何卒御都合モ不苦候ハ、御退朝之御帰路、御来診賜候義相叶間敷哉、此段伏テ奉希入候、於御許容ハ千万忝存候、自然御来診モ給候ハ、何時比御光来給候ト申事小生心得迄ニ拝承仕度、其時間ニ周利出頭申遣置候、何モ不惡御聞取所仰候、先々右相願度早々頓首

一月廿八日 錦織教久
池田謙齋殿

(1) 松木宗有^{まつきむねあり} 錦織教久妻須賀子の父。松木家は家。藤原北家道長の男頼宗の後裔。代々楽道・笙の家。宗有は文政9年生。明28年11月没。享年70。(1826-1895)伯爵。

11 明治 年1月28日 (3003)
(端裏書) 池田様 呈閣下 病用

吉田周利⁽¹⁾ 拜

拜啓、昨日ハ松木家殿御賢診被成下奉多謝候、其節可奉得鳳眉之処、懸ケ違拜謁不仕、多罪之段御海容可被下候、御教諭之通り朝暮体温脈搏ハ悉ク可記候、且亦内服水塩酸里没奈埜キニー子丸御処方ヲ午前九時頓服ニ致投与置候、先ツ諸症同容之内昨日ヨリ舌上乾燥、且ツ不潔モ少々ハ宣布、其外異状無之候、御繁務之処奉願兼候得共御退出之砌今一応御高診ハ被下間敷哉、此段伏て奉仰願候、委曲ハ拜謁可申上候、右相願度、勿々敬白
一月二十八日

(1) 吉田周利 錦織家出入り医師。池田謙齋宛書簡によれば、北白川宮家・小笠原長生家・松平直亮家へも出入し、池田謙齋の診察を依頼している。

12 明治 年2月22日 (3004)
(端裏書) 謙齋大先生 奉呈閣下 病用

吉田周利 拜

拜啓、尔後愈御安祥奉恭賀候、陳ハ松木家殿^(マツ) 遂日快和相成、不一形御尽力被成下以御蔭快方御同様大慶之至奉存候、然処一昨来極ク微感冒之気味、其節入沢⁽¹⁾ 子一診御坐候て加密列浸中民埜列里単舎御手当ニ相成、昨今キナ浸ヲ相止メ右之浸剂ヲ投与いたし置候、感冒至て軽症之事ニ被存候、因テ御繁務之央奉願兼候得共、一応御高診之上猶御指揮被成下度奉希上候、無是迄奉得鳳顔之処、遂々懸ケ違失敬而已多罪之段御海容可被下候、何れ拜謁可奉多謝候、勿々敬白

二月二十二日

(1) 入沢達吉か

13 明治 年2月13日 (2350)

(封筒表) 池田謙齋様

(封筒裏) 錦織教久

不相変余寒甚敷相覚候処愈御清適被成御起居奉賀候、昨日は故業久病中之思召にて態々御来駕被下候段御厚意の御事ト深感謝仕候、雑魚一台聊謝意を表スル為メ入御覧候、御受納被下候得は本懐之至ニ御坐候、右勿々頓首

二月十三日

錦織教久

池田謙齋様 侍者

[17] 橋本実梁の書簡

当家は藤原北家閑院公季の後裔で、西園寺家の分家。代々楽道を家業とする。実梁^{さねやな}は天保5年生。明治18年没。享年52。(1834-1885)幕末王事に尽力。戊辰の役では東海道鎮撫総督。元老院議員。伯爵。叔母経子は皇女和宮の生母。

1 明治 年12月24日 (2402)

(封筒表) 池田謙齋殿

(封筒裏) 緘 橋本実梁

前略御免、過日は□然□詳細御診察難有万々奉謝候、扱今一度御診察相願度候処、先日は前刻より来集之受診ヲ妨ケ如何ニも不相濟儀ニ付、本日午後又ハ明日午後罷出御差間無御坐候哉、御都合御間合申入度、早々不備頓首

十二月廿四日

実梁

池田謙齋君 坐下

[18] 東園基愛の書簡

当家は藤原北家道長の男頼宗の後裔で、園家の分家。代々神楽^{もよなる}を家業とする。基愛は嘉永4年生。大正9年没。享年70。(1851-1920)明治初年侍従となり、以後明治・大正の二代に奉仕。掌典次長も勤める。子爵。

1 明治 年7月17日 (3123)

拜啓、弥御安康奉賀候、陳ハ片岡⁽¹⁾ 侍従小兒過日来少々時氣ニ触レ、且ツ風邪にて時々発熱致し兎角快方ニ至り兼甚困却之次第、最モ山川氏ニ依頼致居候得共何分片岡留守中之事故家内大心痛、

何卒御来診願上度小生ヨリ願上呉候様依頼ニ付、寸楮ヲ以テ願上候、偏ニ御来診願上候、頓首拝具
七月十七日 東園基愛
池田謙齋殿 侍史
追て片岡侍従宅ハ京橋区山下町十八番地ニ候也

- (1) 片岡 片岡利和. 天保7年生. 明治41年没.
享年73. (1836-1908) 高知藩士. 戊辰戦争に功あり. 侍従. 男爵.

[19] 藤波言忠の書簡

当家は天兒屋根命の後裔、大中臣清麿より興る。代々神宮祭主・神祇大副を世襲。言忠は嘉永5年生。大正15年没。享年75。(1852-1926) 広橋胤保の次男。藤波家の嗣養子。侍従・貴族院議員・宮中顧問官・臨時帝室編集局副総裁等歴任。子爵。

- 1 明治 年10月23日 (2593)
(封筒表) 池田侍医殿
(封筒裏) 藤波言忠
今度水戸へ御行幸被遊候ニ付てハ、貴官供奉被仰付候旨唯今御沙汰相承仕候、因テ此前沖ノ島号御乗試も有之よしにて、同馬ヲ貴君ニ拝借被仰付候事伺ヒ濟ニて、演習地ハ該馬御拝借被下度、此段御心得まで申上候也
十月廿三日 言忠
池田侍医殿

- 2 明治 年6月8日 (2594)
今朝九時頃罷出、御診察可相願御約束申上置候通、御用都合有之今日は參上難仕、因テ後日近々是非參上仕、篤ニ御診察相願度候間、何日比御在宅ニ候哉、一寸御一筆御示し被下度、此段御伺申上候也
六月八日 藤波言忠
池田謙齋殿

- 3 明治 年10月12日 (2595)
近比甚御苦勞恐縮仕候へ共、小生之親友ナル三井

物産会社社長益田孝之弟ナル益田克徳と申人之娘、大病にて九死一生との容体、右病症はジブテリヤと申事、如何にも両益田之愛子ニテハ一応貴台之診察ヲ乞、其上医業之功も無之次第なれハ無致方次第、右は本人罷出可奉願之処、至急以書面益田孝より小生へ相頼まれ候間、甚御面倒なれとも今日は非一応御診察被下度、右娘之番地 金杉村四百十二番地 益田克徳
就ては御出被下候哉、此者え乍失敬拝承仕り度、右願用而已、不尽頓首

十月十二日 藤波言忠
池田老台

- 4 明治 年7月2日 (2596)
拝啓、昨夜来少々服痛下痢兩三度、今朝気分陰鬱、矢張り之気味有之、昨夜ノ下りにハ勢力を減し甚困却仕居候間、遠方之処恐縮仕候得共御来診奉願候也

七月二日 藤波生
池田君

- 5 明治 年1月23日 (2597)
御清榮奉賀候、然ハ今明日之内誠ニ遠方恐縮仕候得共御診察相願度、昨日風邪にて平臥仕居候間、御診察を受ケ養生仕り度、且又外ニ御相談仕候事件有之、旁もし今明日御暇もあれハ暫時御来臨奉願上候、不尽頓首
一月廿三日 藤波侍従
池田君

[20] 堀河康隆の書簡

当家は藤原北家冬嗣の長男長良の後裔。高倉家より分かれる。康隆は天保7年生。明治29年没。享年61。(1836-1896) 侍従。明治16年継承。子爵。

- 1 明治 年5月6日 (2647)
前略、御内談申入度義御座候間、御面会申入度存候処、明日横浜迄御出張之趣伝承仕候、依之明後八日午前九時比より同十時比迄ニ貴邸迄參上可仕候間、右時限比御在宅之御都合懇願候也
五月六日 堀河侍従

池田一等侍医殿

2 明治 年7月30日 (2650)

前略、一昨日は早速来臨、男子御診察被下扱々不堪鳴謝候、且御認之壱封早速山川⁽¹⁾氏え為持遣し下痢ノ調薬服用致シ候処、同夜三時比より昨朝迄ニ四五度下痢致シ胸下之苦惱快ク相成、昨朝始て聊ナカラ麦飯食用順快ト見受候、且下痢昨夜八時比迄ニ都合拾老度有之、昨夜は安眠も致、今朝は猶更胸下爽快之様子ニ候、尤昨日山川氏も来診都合克次第ト陳述候、全ク以御陰快方之事ト深御礼申入度、右御礼旁前条申入度拜啓仕候也

七月三十日 堀川康隆

池田君

(1) 山川 山川幸喜。明治9年6等侍医。明治10年医員。11年退職。以後医家開業し華族・政府高官家に入出入りする。

[21] 万里小路博房の書簡

当家は藤原北家冬嗣の孫高藤の後裔、勸修寺家より分かれる。博房は文政7年生。明治17年没。享年61。(1824-1884) 権中納言。正二位。伯爵。

1 明治 年12月8日 (2768)

(封筒表) 池田謙齋殿 万里小路博房

(封筒裏) 〆

昔丸容体一昨日より少々ハ宜様ニ見受候、今朝よりハ又宜様ニ相見へ候、毎度御苦労ニ相成恐縮致候、一寸此段申入置度如此ニ御座候、以上

十二月八日 博房

池田殿

[22] 柳原前光・使の書簡

当家は藤原北家冬嗣の兄真夏の後裔、日野家より分かれる。代々文筆の家。前光は嘉永3年生。明治27年没。享年45。(1850-1894) 明治元年東海道鎮撫副総督・外務大丞・賞勳局総裁・元老院議長等歴任。伯爵。異母妹、愛子は^{なるこ}大正天皇(明宮嘉仁親王)の生母。娘燐子は^{あきこ}白蓮と称した歌人。

1 明治18年8月 日 (2838)

本月十六日孝靖院一位⁽¹⁾ 五十日正当ニ付菓子進呈致候、敬白

十八年八月 従三位伯爵 柳原前光

(1) 孝靖院一位 前光の父光愛。文政元年生。明治18年6月28日没。享年68。(1818-1885) 権大納言。

2 明治21年11月17日 (2839)

(封筒表) 勳二等 池田謙齋殿 号外

(封筒裏) 緘 賞勳局

内閣用印

号外

明治二十一年勅令十一月第七十六号勳章佩用式第三條第二項ニアル勳二等旭日章副章之儀ハ其製式旭日三等章ト同様ニ有之候間、最前叙賜ノ旭日三等章ヲ自今副章トシテ御佩用可有之、此段及御通知候也

明治二十一年十一月十七日

賞勳局総裁伯爵 柳原前光

勳二等 池田謙齋殿

(内閣用箋使用)

3 明治24年3月26日 (2841)

正五位子爵 安部信順

明治廿三年中東京府下貧民救助トシテ金二円五十銭寄附候段奇特ニ候事

明治廿四年三月廿六日

賞勳局総裁従二位勳一等伯爵 柳原前光 印

賞勳局副総裁従三位勳一等子爵 大給恒 印

4 明治 年 月 日 (2840)

口上覧

主人前光儀不快ニ付被受御診察度、甚乍御苦労本日午後三時後御来診被下度、此段御頼被申入候事

築地式町目拾六番地 柳原前光 使

猶以本日御差支候ハ、明九日午後第三時後御来車被下度候事

〔23〕四辻（室町）公康の書簡

当家は藤原北家道長の叔父閑院公季の後裔、西園寺家より分かれる。代々雅楽の家として和琴・箏を家業とし四辻と号した。公康は嘉永6年生。明治23年没。享年38。（1853-1890）公康は明治17年室町と改姓した。伯爵。

1 明治 年5月31日 (3025)

益御安福奉賀候、然は祖母病氣御懇切ニ御尽力被成下難有感謝之至ニ御坐候、然ルニ何分老体之儀ニ付快方モ無覚束、先生ニも御配意之由ニテ、昨日御診察之上御同僚の方ニても診察為致候様御示

ニ御坐候得共、小生ニ於テハ先生ニ相願候末ハ最早生死トモニ遺憾無之儀ニ付、何分先生え此上ナカラ御依頼伏て懇願之至ニ御坐候間御承諾希入候、乍去本日ハ紅梅典侍初メ御集合ニ御坐候得は、先生之御意見之処モ申聞候、右ハ昨日折悪シク御来車被下候節不在、依之乍略儀以紙上願上度、其上取込中不文大乱筆御推覧可被下、草々頓首

五月卅一日 四辻公康

池田謙斎大先生 梧下

社寺華族の書簡

社寺華族の書簡は少なく、東・西本願寺大谷二家よりの2通と出雲大社大宮司の千家尊福よりの2通に過ぎない。千家尊福のものは明治31年3月と7月に行われた貴族院男爵議員選挙投票に関する印刷物なので、1通は省略する。

〔1〕大谷光瑩の書簡

大谷光瑩は嘉永5年生まれ。大正12年没。享年72。（1852-1923）浄土真宗東本願寺22世門主。法名現如。明治初年父光勝の命により北海道開拓・開教の指揮を執る。伯爵。

1 明治 年1月10日 (825)

（封筒表）池田謙斎殿

（封筒裏）緘 大谷光瑩

拝啓、寒気相加候処、愈御安康奉慶賀候、扱拙衲愚父光勝⁽¹⁾儀、本日急病ヲ発し候ニ付夫々医薬手ヲ尽し候へ共、何分老体之儀ニ候へハ快復之程も如何アラン歟ト深く心痛仕候儀ニ御座候、且又拙家ハ宗門之事故多数門末之者ニも非常心痛仕候事ニ候へハ、荏苒打過候儀ニハ難到、充分之上ニモ充分之手ヲ尽し不申候ハテハ拙衲カ愚父ニ対スル道も難相立候へハ、門末ニ対スル義務も難相立候ニ付飽迄治療ヲ尽し度存候事ニ御座候、夫ニ付誠ニ以恐入候へ共、一応貴氏え御診察ヲ乞ヒ度存

候事ニ御座候、乍併私ニ御招待申上候儀ニも難参存候ニ付、其御筋へも夫々御願申候間、何卒拙衲カ心情御推察被下、一応御診察ニ預り度奉存候、左候ハ、門末之者ニ至ル迄皆々満足仕候事ニ御座候間、宜御承諾之程奉希上候、右ニ付菊池秀言ト申者差出候間、同人万端御申聞被成下度、右御依頼申上度、如是御座候、頓首

一月十一日 大谷光瑩

池田謙斎殿

(1) 光勝 大谷光勝。文化1年生。明治27年1月15日没。享年78。（1817-1894）東本願寺21世。法名嚴如。幕末維新の時代法門維持の為多大なる尽力をする。特に新政府の求めに応じて北海道の開教事業に力を注ぐ。伯爵。

〔2〕大谷光瑞家扶の書簡

大谷光瑞は明治9年生。昭和23年没。享年72。（1876-1948）法名鏡如。浄土真宗西本願寺の門主。探検隊を率いて中央アジアの考古学的調査に貢献。伯爵。

1 明治38年4月5日 (730)

拝啓、先代光尊⁽¹⁾三回忌法会来十一日ヨリ十八日迄執行致候ニ付テハ、乍粗末為志白餅老折被進

高堂ニ可然御披露願上候、敬具

四月五日 伯爵大谷光瑞 家扶

男爵 池田謙齋殿 家扶御中

(1) 光尊 大谷光尊、嘉永3年生、明治36年1月没、享年54。(1850-1903) 浄土真宗西本願寺門跡明如、光瑞の父、贈従一位、伯爵。

[3] 千家尊福の書簡

当家は天照大神第2の御子天穗日命あまのほひのみことの後裔で、代々出雲国造・出雲大社宮司、千家尊福は弘化2年生、大正7年没、享年74。(1845-1918) 出雲大社大宮司を勤める傍ら東京府等の知事、司法大臣を歴任、男爵。

1 明治31年3月16日 (869)

一、貴族院男爵議員補欠選挙人確定簿 壹冊

一、投票用紙 壹枚

右貴族院男爵議員補欠選挙ノ為貴族院伯子男爵議員選挙規程第二條同第十五條ニ依リ交付致候

一、貴族院男爵議員補欠選挙

明治三十一年四月十五日 内山下町華族会館ニ於テ

投票 午前九時ニ初メ十時三十分ニ終ル

開票 午前十一時

右及御通知候也

明治三十一年三月十六日 男爵選挙管理者

男爵 千家尊福

男爵 池田謙齋殿

追テ貴族院伯子男爵議員選挙規則第十條及第十一條并ニ同選挙規程委託証状書式等御了承相成度候也 (印刷物)

拜啓、陳者来ル四月貴族院男爵議員補欠選挙ニ付キ川口武定氏ヲ候補者ト相定メ度旨過般御相談申上候処、同氏儀今般宮内次官ニ任命相成候ニ付、議員候補者辞退被申出不得止儀ト存候、付テハ生等ニ於テハ更ニ男爵小早川四郎氏ヲ候補者ト相定候事ニ同志申合候間、御差支無之限リハ御同意被下右小早川氏ヲ御投票被下候様致度、此段御相談旁更ニ申進候、拜具

明治三十一年三月十四日 本田親男⁽¹⁾

千家尊福

小澤武雄⁽²⁾

追テ最早選挙ニ余日モ無之ニ付、前陳之儀御諾否乍御手数(ママ)打返シ麻布区富士町廿八番地本田親男方へ御答被下度候也(印刷物)

(1) 本田親男ちかお 文政12年生、明治42年没、享年81。(1829-1909) 鹿児島藩士、幕末・維新期に活躍、枢密顧問官等を歴任、男爵。

(2) 小澤武雄 弘化元年生、大正15年没、享年83。(1844-1926) 小倉藩士、陸軍に入り陸軍中將、陸軍士官学校長・参謀本部長歴任、男爵。

〔主要参考文献〕

朝日新聞社編「朝日 日本歴史人物事典」朝日新聞社 1994年11月30日発行

霞会館諸家資料調査委員会編「昭和重修華族家系大成」上・下巻 霞会館 1984年4月10日発行

東京大学史料編纂所編「読史備要」講談社 1966年3月30日発行

池田文書研究会編「東大医学部初代総理池田謙齋」上・下巻 思文閣出版 2007年2月25日発行

日本歴史学会編「明治維新人名辞典」吉川弘文館 1981年9月10日発行